

お寺はいま

千葉県松戸市(東京教区千葉組)

天
真
詩

ボランティアの心が
ご縁をつなぐ



天真寺景観（2015年夏休み子ども会の様子）。イラストは「INFスタンプ」となった天真寺のマスコットキャラ天ちゃん。

ふるさとのお寺から松戸へ
天眞寺は、初代西原正念住職（島根県邑智郡淨圓寺第十二代）が、千葉県松戸市で始めた都市開教寺院である。正念氏は、

ふなせとのおまかに「松」へ

天眞寺は、初代西原正念（おもね）が、千葉県松戸市で始めた職（島根県邑智郡淨圓寺第十一代）が、千葉県松戸市で始めた都市開教寺院である。正念氏は、

んは、このように自発的な意識を持つてゐるのだろうか。

寺の雰囲気。門信徒の皆さんは、天真寺の魅力を「明るい」「樂しい」「気軽に寄れる」「開放的」「家庭的」と言う。さらに、寺族の皆さんとの姿勢も大きいようで、「寺族の皆さんが活発で積極的」「丁寧に話を聞いてください」との声が聞かれた。そして、お寺の法座や勉強会、連研や中央教修を受講した皆さんとの門徒としての自覚があげられる。小林繁夫さんは「お寺は葬儀や法事だけをやるところではなく、いろんな活動を通して人が集まる場所だと思います」と言う。

明るく開かれたお寺の雰囲気と寺族の積極的な姿勢、そして門信徒の自覚が、自発的な意識を育んでいるようだ。

お寺は地域とつながる拠点

お寺に帰つてまず関心を持つたのが、(特活) アーユス仏教国際協力ネットワークの活動だつた。アーユスは、貧困や平和などの世界の様々な問題に取り組むNGOを、宗派を超えた僧侶が支え、お寺を世界と地域をつなぐ場所にする団体である。天真寺は、東日本大震災の際、現地に赴くとともに、アーユスと協力して、境内で福島県産の野菜や加工品などを販売した。これまで天真寺で行われてきた支援活動は、お寺が地域や社会とつながる拠点となるという理念にもとづくものといえる。



「ふれあい農園」で採れたお野菜でピザ作り。左奥で、紺色の帽子を後ろ向きにかぶっているのが小林繁夫さん。

ボラン寺（ボランティアのお寺）

この理念は門信徒にも影響を与えていた。天眞寺の皆さんには天眞寺を、「ボラン^{てら}寺」（ボランテアのお寺）と呼ぶ。天眞寺には、「人の役に立ちたい」「奉仕がしたい」という思いを持つ方がたが多い。

これまで副住職によつて、特別養護老人ホームへの傾聴ボランティアが行われてきた。今回は、スタッフとして、門信徒の西山安子さん、柴田るみ子さん、西原悦子坊守がはじめて加わった。三人とも現場に出る前に市の傾聴講座を受講した。柴田さんは、本願寺の若手僧侶による仮設住宅への居室訪問活動を知つて傾聴活動への関心が高まり、悦子坊守を誘つての受講だつた。

今回の訪問先は、「いちはら診療所」、「ホームステーションらいふ松戸八柱」、「特別養護老人ホーム明尽苑」の三ヵ所。それぞれ天眞寺から車で十分以内の場所にある。訪問時間は冬



富永さんの個室に掛けられたご本尊。



傾聴を終えてハイポーズ。左から、龍哉
副住職、西山さん、柴田さん、悦子坊守
門徒の宮永さん。



寺報「月刊天真」の発送作業。
手際よく、紙を折って、封入する



仏教壮年会主催「仏教書の輪読会」の様子

…これまでの天眞寺の主な活動…

- ①お寺の行事 元旦会、春秋彼岸会法要、永代経法要、盂蘭盆会法要、おかげさま報恩講、定例法座、みんなの日曜礼拝、初参式や七五三（めぐみの参拝）、仏前結婚式など。
 - ②門徒会会活動 「仏教壮大年会」（仏教書の輪読会、ふれあい農園の運営、キッズクラブの企画・運営など）、「仏教婦人会」（お経や仏教讃歌の練習、手芸、老人ホームでのボランティア活動など）、「キッズクラブ」。
 - ③地域に開かれた活動 雅楽教室、ヨガ教室、踊り教室、グランドゴルフ、お抹茶を楽しむ会、ふれあい農園など。
 - ④支援活動 インドの子どもたちの教育を支援する活動（PROJECT VAIDEHE）、カンボジアの子どもたちに人形やサッカーボールをかたどった布を送る活動（みんなで布チョッキン）、NPO法人JIPPOに協賛して世界各地のフェアトレード商品を販売、東日本大震災の支援活動、雅楽によるチャリティーコンサート、（特活）アーユス仏教国際協力ネットワークの協力を得て、福島県産の野菜や加工品などを販売